

【コメント（アドバイス）D】（計画 ⑦）

まず、本事業の位置づけとして、施策、施策の柱、事業の項目が、「家庭の教育力の向上」→「家庭教育支援（のための学習機会提供）」→「プログラムを活用した家庭教育支援事業」のように、それぞれが目的と手段の関係で設定されていることはよいと思います。

特に、事業評価フロー図では、「親の学び」講座実施のための広報、進行役育成講座、プログラムトレーナーの研修と派遣を経て「親の学び」講座が実施され、家庭の教育の向上、基本的生活習慣の向上に至る流れはわかりやすいと思います。

なお、次の点についてはより具体的に、あるいは詳細にしていくとさらにフローが明確になると思います。

1) 事業実績にある「親の学び」講座実施の広報の評価指標である「広報回数」は、パンフレットの配布回数のことか、それとも別の広報のことかがわかりにくいと思います。

2) 「事業の直接的な効果」と「事業目的達成度」の間に、もう少し具体的な内容を挿入すると、フローのステップがわかりやすくなると思います。

3) 「親の学び」講座の検証は、事業評価フロー図において講座の実施にのみ関わることになっていますが、本事業全体に関わるようにも思われます。それによって、図における「親の学び」講座の検証の位置が変わってくると思います。

全体としては、事業の評価指標を設定する上で、概ね定量的な指標を適切に示すことができている。また、「フロー図作成上のポイント・留意事項等」に記述されているように、「事業の直接的な効果」の視点を絞っているため、わかりやすい組立になっています。

個別には、「学習機会の提供」を「施策の柱」としていますが、「事業の目標」が「～「生きる力」の基礎を身に付けた子どもを育成する」となっており、少々差があるように感じるとともに、「事業目的達成度」の「子どもの基本的生活習慣の向上」も、この事業の評価項目・指標としては、少々大きいように感じます。

「事業実績」にある「プログラムトレーナーの派遣」は、「親の学び」講座の実施に関連する項目・指標であり、「事業の直接的な効果」にある方が適切であると思います。